

製品 3 R システム高度化WG・今後の重点検討事項について（案）

製品のライフサイクル全体において、天然資源消費量、廃棄物発生量及び環境負荷を最小化するような対応が可能となるよう、製品毎の3 R システムの高度化を図るために必要な措置について検討を行うこととする。（「ゆりかご」から「ゆりかご」までを見据えた世界に先駆けた「製品 3 R システム」の構築）

製品 3 R システム高度化に向けた設計・製造上の工夫について

- 解体・分別及び再利用の容易化のための設計・表示について
製造事業者による使用済み製品の回収・再資源化の容易化、再利用の促進等のため、解体・分別の容易化等の設計・製造上の工夫並びに表示の工夫を行うことについて、基本的な考え方を検討する。
- 製品含有物質の管理について
製造事業者による使用済み製品の回収・再資源化の容易化、再利用の促進等のため、製品に含有される物質を管理し、その含有量等を情報開示する等の方策を行うことについて、基本的な考え方を検討する。

製品の環境配慮情報活用に向けた方策について

- 消費者による製品の環境配慮情報の活用について
製造事業者による製品の環境配慮情報の開示を促進し、定義の明確化、説明の工夫等により消費者が製品の環境配慮情報を利用しやすい状況を創出すること等により、消費者が環境配慮製品を選択することを促進するための方策を検討する。
- サプライチェーンにおける製品の環境配慮情報の流通・活用について
サプライチェーン間において製造事業者が製品（部品）の環境配慮情報を活用することで、環境配慮製品の製造を容易にするとともに、製造事業者による使用済み製品の回収・再資源化を容易にする方策を検討する。

製品 3 R システム高度化にかかる手法の国際整合性の確保について

- 環境配慮設計等の国際標準化への対応について
製品が国際的に流通し、また、サプライチェーンも多国にわたることに鑑み、国際標準規格の策定の動きも踏まえつつ、手法の国際整合性の確保に向けた基本的な考え方について検討する。